

フォト

PHOTO



人と環境にやさしい有機農業を推進

5/23
月

オーガニックビレッジに向けてキックオフ!

都市近郊という強みを生かして有機農業を推進することで、『町内農産物』と『まちのイメージ』のブランディング化を目指す取組がスタートしました。

会議には、東京大学大学院の香坂 玲教授を始めとする有識者、町内有機農家、商業者、消費者など様々な関係者が約30人集まり、熱く意見交換をしました。

香坂教授は、「オーガニック食材が日常的に各家庭の食卓に並ぶようにするには、農家や関係団体と行政が一体となって、次世代につながる包括的な取組が必要」と話しました。

今後、有機農家の支援や野菜づくり体験などの消費者理解の取組を進めながら、今後5か年の有機農業実施計画を策定し、今年度中に県内初となる「オーガニックビレッジ宣言」を目指します。

3年振りの開催に心躍る

5/25
水

老人クラブゲートボール大会



長袖では汗ばむ陽気の中、ふれあい広場ゲートボール場で老人クラブ連合会主催のゲートボール大会が行われました。

ゲートボールは、技術や体力もさることながら、ボールの配置など戦略を練りながら行う頭脳戦でもあります。選手たちは、体も頭もフル回転で普段の練習の成果を発揮していました。

今大会は5地区から8チームが参加しました。結果は、優勝 部田老人クラブAチーム、準優勝 諸輪老人クラブAチーム、3位 白土老人クラブチームでした。

参加者からは「コロナ禍により2年連続で中止となっていたが、今年は参加できてうれしい。来年もぜひ開催してほしい」という声が聞かれました。

大きな重機にドキドキ!

5/31
火

和合保育園 重機乗車体験

園舎の老朽化により今年度末で閉園予定の和合保育園に通う園児約50人が、来年度から通う新たに整備される私立認定こども園の建設現場で重機の乗車体験をしました。

バスに乗って体験会場に到着すると、バックホーという大きな重機がお出迎え。建設会社の社員がバックホーを動かしてみせると、園児たちから大きな歓声が上がりました。

その後、ドキドキしながら一人ずつ重機に乗せてもらいました。安全上、重機は動きませんが、クラクションのボタンを押すと大きな音が響きます。園児たちはクラクションの音に負けないくらい大きな声を上げて驚いていました。

重機乗車体験の後は、建設中の園舎予定地を見学しました。保育園の職員は「完成前から今後通う新園舎に親しんでもらえた。新しい環境への期待が増したのでは」と話していました。



ニュース NEWS な

自分のペースで一歩一歩

5/15 TOGO 春のらららスポーツまつり

各小学校区別のコース2~5kmを町内の名所などを巡りながら歩くこのイベントに、165人が参加しました。スタート地点の1つであるいこまい館では、主催者のコース説明に熱心に耳を傾けた後、それぞれのペースで新緑の輝く川沿いのウォーキングコースを歩き始めました。

1時間ほど歩き無事ゴールした参加者は「自然の中を歩くのはとても気持ちよかった。ぜひ来年も参加したい」と話していました。

みんな興味津々♪

5/19 大きなテントウムシ、見つけたよ!

町内で捕まえた大きなテントウムシを、中部保育園の子どもたちがお世話しています。

よく見かけるテントウムシの、なんと2倍ほどの大きさ！子どもたちは「大きいね」「かわいいね」と話しながら、虫かごに入ったテントウムシをみんなで囲んで熱心に観察していました。

調べてみると、おそらく「ハラゴロオオテントウ」という種類で、日本で見られるテントウムシでは最大級の様です。他にも、ダンゴムシやカタツムリ、カブトムシの幼虫などいろいろな生き物を飼っていて、先生たちは「生き物との触れ合いを通して、いろいろなことに興味を持って成長してほしい」と話していました。



見つけたテントウムシ
よく見るテントウムシ

文化に触れる。発信する。

5/21~22 春の文化祭

5月21日、22日の2日間、町民会館で春の文化祭が開催され、約1,000人が会場を訪れました。

22日の芸能大会では、子どもたちの元気なダンスから華々しく始まり、狂言や社交ダンス、歌謡など多彩な演目を披露し、観客を魅了していました。

また、両日を通して、絵画や写真などの展示、陶芸品の絵付け体験、手芸品の販売など、幅広い文化に触れることができました。

技術を競い合う

5/22 町消防操法大会

夏のような暑い日差しのもと、小型ポンプの操法技術を競い合う操法大会が行われました。

町内の5分団が出場し、それぞれ磨き上げた技術を惜しみなく発揮しました。機敏な動きとホース捌きにより放水が的に正確に当たると、観覧者から歓声と大きな拍手が送られました。

結果は、諸輪分団が優勝、祐福寺分団が準優勝、傍示本分団が入賞でした。参加した消防団員は「いざというときに町民の安全を守るため、今後も訓練に励みます」と決意を語りました。

